



とっかい ~やさしさをはぐくむ~

我がまちの無形文化財『紋別沖揚音頭』

もんべつおきあげおんど

協力：紋別沖揚音頭保存会

皆さん、〔紋別沖揚音頭〕とは、どんなものかご存じですか？

北海道では、昔からニシン(鯨)、サケ(鮭)、マス(鱒)は「三魚」と言われており、ニシン漁は昭和30年頃に大きな来遊が見られなくなるまで、道内沿岸のメイン漁業でした。

そもそもこの〔沖揚音頭〕とは、ニシン漁の水揚げ・網起こし・くみ出しのほか、共同作業の拍子を合わせる掛け声の唄で、皆さんも知っている「ソーラン節」も、そのひとつです。

1938年(昭和13年)に、「今野芳太郎」が道南のニシン場から紋別に移り住んだのち、唄われるようになったと言われています。

その当時、紋別もニシンが大量に来遊し、浜もニシン漁により漁業の中心となって活気にあふれていました。その中で、1948年(昭和23年)から〔紋別沖揚音頭〕は独自のかたちを作り上げ、現在まで唄われ続けている紋別の『無形文化財』なのです。



ニシンの網はずし作業(昭和24年頃)
(紋別市史より)



北方圏国際シンポジウムでの公演
2018年(平成30年)2月18日(紋別市民会館)

曲は〔おーしこ〕の掛け声から始まり、「出漁」から「網起こし」、「きやり音頭」「ソーラン節」、「たたき唄」の五部で構成され、漁師の作業風景を表現しています。

また、途中から、紋別漁協女性部の踊りも加わりますが、それはニシンの大漁、夫が無事に漁から帰って来たことなどの喜びと感謝が込められているとされています。



この〔紋別沖揚音頭〕は、紋別
流水まつりが初めて開催された
1963年(昭和38年)から継続し
て演じられています。



58回目となった『もんべつ流水まつり』での公演
2019年(平成31年)2月10日



最初は数人の有志から始まったこの〔紋別沖揚音頭〕は、1972年(昭和47年)、
正式に現在の『紋別沖揚音頭保存会』として結成されました。

しかし、年々会員の減少により存続が難しくなり、この文化を未来へとつなぐべく
1977年(昭和52年)より、沖揚音頭保存会、漁協女性部、漁協青年部がともに協力
しながら、文化伝承を行っております。

これからも、先輩方の意思を引き継いで『紋別沖揚音頭保存会』を永く続け、後輩
たちにも受け継いでいって貰えればと願っています。



～ 問い合わせ先 ～
『紋別沖揚音頭保存会』
紋別市港町6丁目(紋別漁協内)
☎ 0158-24-2131
FAX 0158-24-1680

< 発行 >
紋別市教育委員会
生涯学習課 社会教育係
〒094-0006
紋別市潮見町1丁目4番3号
(市民会館内)
☎24-2416 FAX23-5603